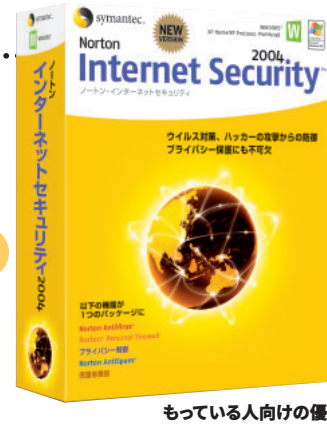
追加機能はスパム対策ソフトだけじゃない！使い勝手が上がったセキュリティー統合ソフト

Norton Internet Security 2004

発売中

シマンテック

販売価格：9,800円（優待版は7,800円）



標準パッケージのほか、デスクトップとノートパソコンなど2台で使うための2ユーザーパック、すでに他のウイルス駆除ソフトをもっている人向けの優待版や、2003を持っている人のためのアップグレード版もある。

本格的スパム対策ソフトを新たに搭載

Norton Internet Security 2004は、ウイルス対策ソフトである「Norton AntiVirus」、ファイアーウォールソフトの「Norton Personal Firewall」、そして、今回新たに加わった、スパム対策ソフトの「Norton AntiSpam」が1つになった統合パッケージ製品だ。

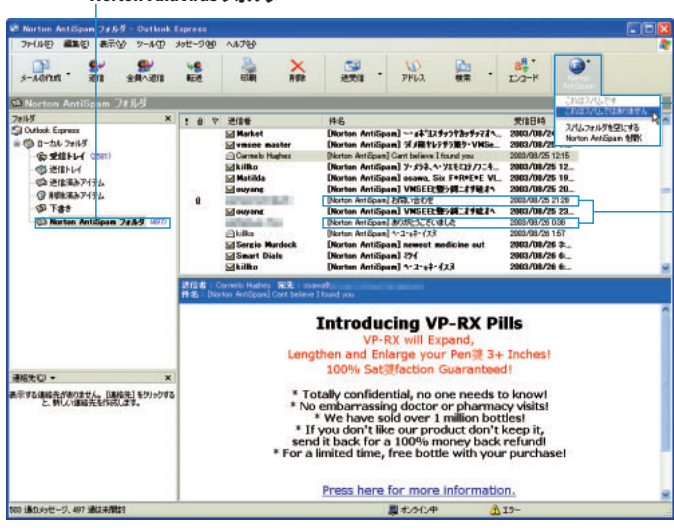
Norton AntiSpamは、メールを受信した時点で、スパムと思われるメールの件名の頭に[Norton AntiSpam]という文字を入れる。メールソフトの件名による振り分け機能を使うことで、スパムメールの除去ができるというわけだ。ただし、この機能はPOP3による受信を監視しているため、POP3に対応するメールソフトなら動作するが、サーバー上のメールのタイトルや発信者を見て受信するかどうかを決められるIMAP4では動作しないので導入時には注意したい。

さらにメールソフトとして、Outlook、Outlook Express、Eudoraのいずれかを使っている場合には、メールソフトとNorton AntiSpamが統合して動作する。たとえば、Outlook Expressを使う場合、「Norton AntiSpamフォルダー」というフォルダーがNorton AntiSpamのインストール時に作成され、スパムと思われるメールは、このフォルダーに自動的に振り分けられる。

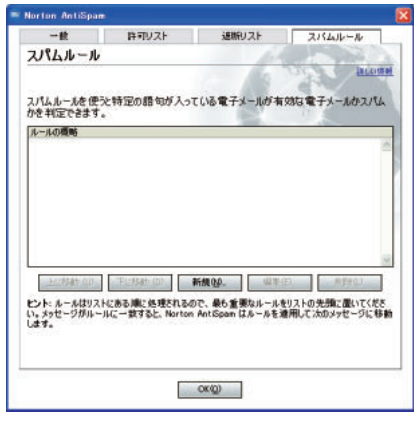
何をスパムと見なすのかは、シマンテックが提供している定義ファイルによるため、詳細な仕様は不明で、ユーザーは[高][中][低]の3段階で判断基準をおおまかに設定できるだけだ。試してみたところ、件名に[未承諾広告]と入っているメールや送信者名が送信されたメールサーバーと異なるなど偽装されているメールなどがスパムの対象と見なされるようだ。

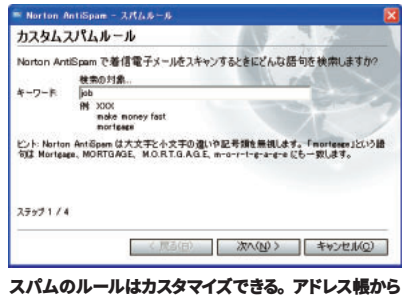
デフォルトの設定でもスパムの判定はほぼうまくいくが、本来スパムではないのに無題のメールや本文が極端に短いメールなどは、スパムと判定されることがある。その場合には、[このメールはスパムではありません]を選択すると、スパムの対象からはずれる。そして学習効果によって、次に届く類似のメールはスパムとして見なされなくなる。

もちろん事後にスパムとして扱わないと設定するだけでなく、事前に、「特定のメールアドレスからしか受け取らない」「アドレス帳に登録されているアドレスからのメールはスパムとしない」などといった項目を、手動で設定しておくことも可能だ。



↓Outlook Expressを利用している場合には、「Norton AntiSpamフォルダー」ができ、その中にスパムメールが表示される。Norton AntiSpamのボタンも追加され、ボタンのメニューから、スパムかスパムでないかを切り替えることもできる。





スパムのルールはカスタマイズできる。アドレス帳からインポートし、該当するメールアドレスからは無条件に受け入れたり、特定のメールアドレスを登録し、それを差出人とするメールを拒否したりできる。そのほか件名や差出人、本文などに特定の文字が含まれている場合にスパムとして扱う設定もできる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ファイアーウォールは「場所」登録が可能に

ファイアーウォール機能を提供するNorton Personal Firewallには、利用するネットワークに応じて適したセキュリティー設定を切り替えられる「場所」の登録機能が加わった。

デフォルトでは場所として[デフォルト][外出先][オフィス][ホーム]の4つの場所が登録されている。たとえば[オフィス]の場合には、社内LANなど何らかのファイアーウォールが設定されている環境を想定していて、若干セキュリティーの設定が緩和されているのに対し、[外出先]の場合には、より強固なセキュリティー設定となっている。これらの個々の設定は変更できるし、また、新たな場所を登録することもできる。

「場所」は、インターネットとの通信に使われるネットワークインターフェイスとIPアドレスで判断されて、自動的に切り替わる仕組みだ。たとえば、割り当てられているIPアドレスがプライベートIPアドレスである場合には、ファイアーウォールの下であると認識し、[オフィス]の設定が使われる。手動で設定を切り替える手間がないのでノートパソコンのように接続形態が変わる環境で便利だ。

またNorton Personal Firewallは不正な通信を防ぐだけでなく、個人情報の保護や広告除去の機能も備えている。広告除去は、ポップアップ広告だけでなく、ウェブページ中の広告も除去できる。特に新バージョンでは、インターネットエクスプローラ上でウェブページごとにCookieの有効／無効がボタンで簡単に切り替えられるようになり、利便性が高まった。なおNorton Internet Securityは、性的表現や暴力表現など、青少年に影響を与えるウェブページを見せないようにする保護者向けの機能も備えている。

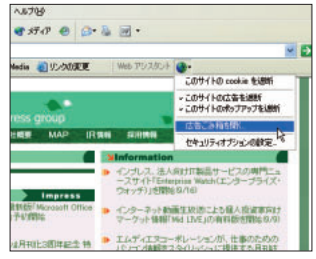
ウイルス駆除機能はスパイウェアに対応

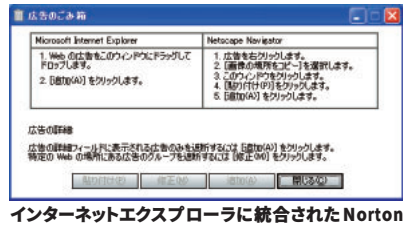
Norton AntiVirusはこの製品の中核とも言えるウイルス対策ソフトだ。ウェブとメール(SMTP/POP3)に含まれるウイルス駆除のほか、ウィンドウズメッセンジャーやYahoo！メッセンジャーなどのメッセンジャーソフトで送受信されるファイルに含まれるウイルスの駆除もできる。新バージョンでは、圧縮ファイル内のウイルス駆除もできるようになった(ウィンドウズ2000/XPのみ)。新バージョンで特記すべき点は、スパイウェアへの対応だろう。スパイウェアは、ウイルスではなく、どのウェブページを訪れたかを調べたり、定期的に広告を表示したりするもので、アドウェアとも呼ばれる。スパイウェアやアドウェアはアプリケーションに含まれることが多く、除去するとそのアプリケーションが動作しなくなってしまうこともあるため、Norton AntiVirusは発見するだけで、それを自動的に除去しない。除去するかどうかはユーザーの判断にゆだねられる。

もともとNorton Internet Securityは、前バージョンの2003で、すでに完成度が高い製品であったため、一見このスパイウェア対策機能やスパム対策機能を備えた以外に、大きな変更はないように思える。しかしネットワークの接続先を自動判別してセキュリティー設定を切り替えてくれる機能や、インターネットエクスプローラとの統合機能など、目立たないながらも使いやすさを向上させる機能が追加されている。また、前バージョンに比べて動作速度が向上し、きびきびと動くようになった点も使い勝手という意味で大きな改善点と言えるだろう。

なお12月には、企業向けのProfessional版が登場する予定だ。Professional版は、社員にアクセスさせたくないURLリストをネットワークを使って配信し、業務に関係ないウェブページを見せないようにする機能や、ウェブで使われるCookieやキャッシュなどの完全なクリーンアップ機能を備える。またインターネットのセキュリティーだけでなく、ゴミ箱から削除してしまったファイルを復帰させるアンイレース機能やハードディスクからファイルを復帰できないように完全に削除するWipe Infoなどのファイルユーティリティーも追加される予定だ。　(大澤文孝)

←場所ごとにプログラムの通信可否、ポートごとの通信許可／拒否の設定ができるほか、ネットワーク範囲やコンピュータを指定し、それらのコンピュータと無条件に通信できる信頼設定をすることもできる。たとえばファイルサーバーやプリンタサーバーを信頼部分に登録しておけば、それらとの通信を妨げなくなる。





インターネットエクスプローラに統合されたNorton Personal Firewall。ページごとにCookieの有効／無効を切り替えることや、広告と見なすURLの登録などが容易に設定できるようになった。

2004ではスパイウェアやアドウェアにも対応した。だが除去してくれるわけではなく、除去は自分で行う必要がある。

OS	ウィンドウズ98/98SE/Me/2000 Professional(SP1以上)/XP (HomeEdition/Professional)
CPU	Pentium互換300MHz以上 (ウィンドウズXPの場合)
メモリー	128MB以上(ウィンドウズXPの場合)
ハードディスク空き容量	200MB以上
対応メールソフト	POP3/SMTPをサポートする一般的なメールソフト
統合可能なメールソフト	Outlook Express 4.0/5.x/6.0、Outlook 97/98/2000/2002、Eudora Light 3.0、Eudora Pro 4.x/5.0
対応メッセンジャー	AOL Messenger 4.7以上、MSN Messenger 4.6/4.7、Windows Messenger 4.6/4.7、Yahoo Messenger 5.0
問い合わせ先	コンシューマ・カスタマーサービスセンター 03-5836-2654

©1994-2007 Impress R&D

ウェブページの著作権を徹底保護 機密書類の限定的なウェブ公開にも向いている

Pirates Buster for WebPage

発売中

トリニティーセキュリティーシステムズ

価格：オープン

Pirates Buster for WebPageは、サーバー上の画像や文書といったコンテンツを保護するためのソフトだ。画像の有料販売サイトで不正入手の防止などに威力を発揮する。サイト全体を保護する「for web」、画像を保護する「for Picture」の2つから構成される

画像やHTMLを暗号化して ウェブページの保存や印刷を禁止

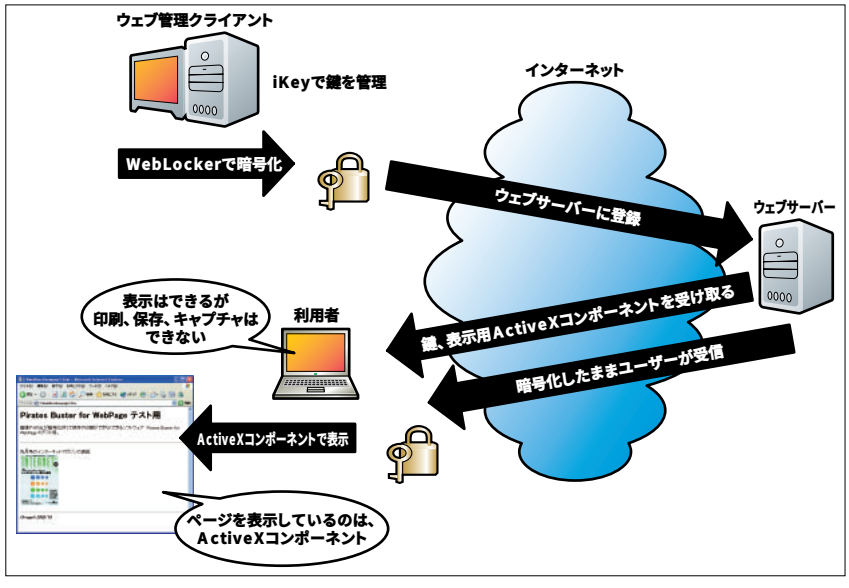
Pirates Buster for WebPageはウェブページの著作権を厳しく保護することを目的とした製品だ。通常のウェブページでは、ページそのものや画像を保存したり印刷したりできるが、このソフトウェアを導入すると、これらの操作を禁止できる。オンラインコンテンツそれ自体をビジネスとして扱う会社では、勝手にページをコピーして利用されたり、画像を2次利用されたりすると好ましくない。また、個人情報の保護などのために画像やページを印刷させたくないといった場合もある。そういう問題への防御策を提供してくれるのだ。

コンテンツを保護するには、まず保護したいHTMLや画像などを、ウェブ管理用クライアントにインストールした専用暗号化ソフトウェアWebLockerで暗号化してウェブサーバーに登録する。ユーザーがそのページを見る場合にはまず暗号を解くための鍵をダウンロードし、さらに閲覧用のActiveXコンポーネントがダウンロードされた後にページが表示されるという仕組みだ（右図）。ActiveXコンポーネントを使っているので、ユーザーはウィンドウズ98/Me/2000/XPでインターネットエクスプローラ5.5SP2以上という限定された環境でしか利用できない。そのため、不特定多数の閲覧者を想定したサイトよりも、会員制のウェブサイトなど比較的閲覧するメンバーが限定されているサイトでの運用に適していると言える。

インストールはやや難 UNIX系OSの知識は不可欠

このソフトウェアは、サーバーにインストールして鍵の管理などを行うPHPのプログラム群と、管理用クライアントにインストールしてウェブページ全体の暗号化を行うソフトウェア

■Pirates Buster for WebPage のしくみ



WebLockerおよびウェブページの画像だけを暗号化するImageLocker、それにActiveXコンポーネントの3つの要素で構成されている。サーバーは、Red Hat Linux 9/7.2、Turbo Linux 7が推奨されているが、ほかのUNIX系OSでも条件が合えばインストールできる。サーバーには、Apache 1.3.26以降、PostgreSQL 7.2.1以降、PHP 4.2.2以降、ウェブページ制作用の言語であるCURLのライブラリーが必要だ。PostgreSQLはおもにライセンスや鍵の管理に、PHPは鍵の設定や配布のために使われている。すでにほかのデータベースサーバーが動いている場合には、新たにPostgreSQLの導入が必要だ。

また管理用クライアントにインストールするWebLockerはウィンドウズ2000/XPのみの対応だ。なお、WebLockerには、USBタイプの電子鍵iKeyが付属する。このiKeyは、それを管理用クライアントのUSBスロットに挿しておかない

Pirates Buster for WebPageで守られたウェブページを閲覧すると、この専用ActiveXコンポーネントがダウンロードされる。

と、WebLockerが立ち上がらないというものだ。これを使うことで、誰かが管理用クライアントを無断で操作し、そこからコンテンツを盗まれるということもなくなる。ちなみに、この2つのソフトウェアのインストール時には、サーバーがすでに動作していることと、iKeyを先にインストールしておくことが必要だ。インストール中にiKeyのシリアル番号とサーバーの鍵を管理するサイトのURLを入力する必要があるためだ。

今回の試用では、推奨されているRedHat Linux

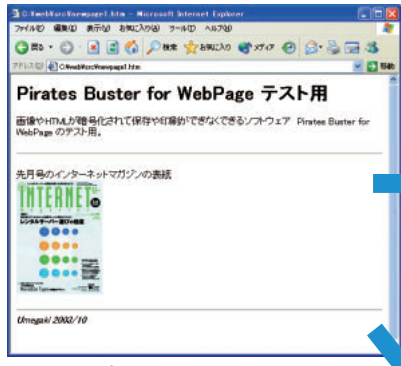
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

9に必要なソフトウェアをインストールした。インストールは、付属の簡単なオンラインマニュアルに従ってほとんどをコマンドラインとエディターで行う一般のUNIX系ソフトウェアのスタイルだ。こういったソフトウェアのインストールやPostgreSQLのコマンドラインツールなどを使ったことがない人は、やや難しいと感じるかもしれない。特に、マニュアルがあまりにもシンプルなので、実際のサーバーではディレクトリー名が異なっていたり、Apacheの動作するユーザーIDが異なっていたりするなどのマニュアルとの相違が理解できないとインストールはなかなか進まない。もう少し親切なマニュアルを用意するか、親切なインストーラを用意したりしてほしい。もちろん、UNIX系のOSに詳しい人なら問題なくインストールはできるだろう。

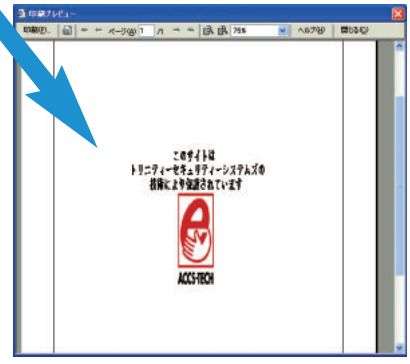
特定のメンバーに公開したいがコピーされては困るといった場面で強みを発揮

このソフトはどういった用途で使うのがいいだろうか。まず考えられるのが、企業の機密資料だ。会社の経営資料などを社員や取引先、出資者には公開したいが印刷したり保存されたりするのは防ぎたいという場合が考えられる。そういう場合は、このソフトを使い、閉じられたネットワークで公開するといいだろう。もちろん、その気になればディスプレイをデジカメで撮影するといった強硬手段で情報を複製することはできるので、本格的に2次利用を保護できるわけではない。もっとも、掲載した段階で公開された情報なのだから、そのファイルや画像をそのまま2次利用できないという程度の保護で十分とも言える。

最後に使用するうえでの注意点を述べておこう。まず、対象となるのがHTMLや画像であるという点だ。PHPなどを使って動的に生成しているウェブページなどは保護できない。保護するファイルフォーマットにも制限があるので、それらの条件をよく確認しておいてほしい。また、すでに述べたが、利用者側でActiveXコンポーネントを動かす必要があるため、OSやブラウザーに依存してしまう点も注意が必要であろう。できることならば、Apacheの拡張モジュールのような形で、サーバーサイドで暗号化などができるシステムになっていると、管理がもっと容易になるのではないだろうか。（梅垣まさひろ）



テスト用ウェブページ。



画面をキャプチャーしようとすると、この画面が表示されてしまう（上）。印刷の場合も、同様の画面が印刷されてしまう（下）。

■Pirates Buster for WebPageで対応可能なデータの種類

		ウェブサイト保護ツール Pirates Buster for Web	ウェブ画像保護ツール Pirates Buster for Picture
画像	PNG	○	○
	BMP	○	○
	JPEG	○	○
	GIF	○	○
	アニメーションGIF	○	○
	透過GIF	○	○
	透過アニメーションGIF	○	×
	透過PNG	○	×
動画	FLASH	△※1	−
ドキュメント	PDF	△※1	−
	SVG	△※1	−
HTML	HTML	△※2	−
DynamicHTML	JavaScript	△※3	−
	CSS	△※3	−

※1　作成する時点で編集印刷保存などを禁止する必要あり
※2　フレーム分割時に制約あり
※3　手動で設定する必要あり、フェードアウトがこま落ちする可能性あり

サーバー仕様	OS	Red Hat Linux 9/ Red Hat Linux 7.2 / Turbo Linux 7※4
	ハードディスク	30Mバイト以上（ログは除く）
	ウェブサーバー	Apache 1.3.26 以降
	データベース	PostgreSQL 7.2.1以降
	スクリプト	PHP 4.2.2以降（CURLライブラリが必要）

			Web Locker	Image Locker
クライアント仕様	暗号化プログラム Web Locker Image Locker	OS	ウィンドウズ2000/XP	ウィンドウズ98/98SE/Me/2000/XP
		ハードディスク	6Mバイト	
		ブラウザー	インターネットエクスプローラ 5.5 SP2 以上	
		その他	USBが必要（iKeyは1本付属）	
	利用者（復号表示プログラム）	OS	ウィンドウズ98/98SE/Me/2000/XP	ウィンドウズ98/98SE/Me/2000/XP Mac OS X v10.2〜10.2.6
		ハードディスク	6Mバイト	
		ブラウザー	インターネットエクスプローラ 5.5 SP2 以上	インターネットエクスプローラ 5.5 SP2以上 インターネットエクスプローラ5.2（Macintosh）

※4　他のOSでも対応が可能な場合がある（要問い合わせ）

©1994-2007 Impress R&D

高機能ながらもこの価格が魅力 PoE対応無線LANアクセスポイント

GW-AP54AG

10月中旬発売

プラネックスコミュニケーションズ

価格：39,800円

アンテナは自在に向きが変えられるので設置場所に合わせて調整可能だ。ランプ類の表示は壁など垂直面に取り付けると視認性が高くなる。

802.11aと11g/bに対応する無線LANアクセスポイント

GW-AP54AGは、既存のLAN環境に接続するだけで無線LAN環境を構築できる無線LANのアクセスポイント専用機だ。新規に無線LANの環境を構築するなら、ルーター機能やハブ機能など複数の機能を備えた製品が便利だが、すでにルーターなどが導入されてLAN環境が完成している場合は、単機能な無線LANアクセスポイントのほうが使いやすい。一般的に、十分なセキュリティー機能や管理機能を備えた無線LANアクセスポイントの多くは、高価で手が出しにくい。ところが、GW-AP54AGは従来の業務用機と同等のセキュリティーと管理機能を備えていながら、価格は従来の普及機に近くなっている点も、大きな購入のポイントになるだろう。

対応する無線LANの規格は、IEEE 802.11aと11g/bで、11aと11g/bの同時利用も可能だ。11bで構築された無線LAN環境を、これから全規格対応に更新しようと思っている場合などにおすすめの製品だ。

PoE対応で電源コンセントから離れた場所でも設置可能

オフィスなど大きな部屋に無線LANのアクセスポイントを設置するとき、気になるのがどこにアクセスポイントを置くかという点だ。GW-AP54AGはデスクや棚の上など水平面への設置以外に、壁など垂直面への設置も考慮した形状なので、設置場所には困らない。また通信状況などをチェックできるランプ類は、スケルトンのカバーを使うことで、どの方向からでも問題なく確認できるようになっている。細かなポイントだが、こういった工夫が意外と日常の利用シーンでは役に立つ。

さらに、イーサネットケーブルを使った給電が可能なPoE（Power over Ethernet）に対応しているので、PoE給電機能対応のスイッチングハブと接続すれば、ACアダプターで給電しなくても済む。また、PoEに対応していないスイッチングハブと接続している場合でも、付属のPoEアダプターを使って給電すれば、ACアダプターなしで利用できる。さらにPoEを利用した状態でも、イーサネットは最長100メートルまでのケーブルが使用でき、広いオフィスや工場などでも電源コンセントの場所に影響されることなく自由度の高い設置が可能だ。

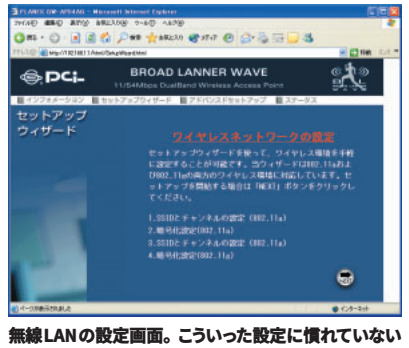
RADIUSサーバーを使うIEEE 802.1xで高度なユーザー認証に対応

GW-AP54Gは基本的に業務用として開発されており、アクセスポイントとしてのセキュリティー機能は十分なレベルにある。通信の暗号化は、WEPの64/128/152ビットやESS-ID隠蔽機能、MACアドレスフィルタリングを備える。さらに、LAN内のユーザー認証の方式を定めた規格IEEE 802.1xにも対応しており、クライアントが無線LANで接続する際にユーザー名やパスワードなどを一括管理するRADIUSサーバーでユーザー認証ができる。

各種設定は、PCからウェブブラウザーを使って行う。無線LAN関係の設定はウィザード形式の設定が行えるので、ウィザードに従って設定を進めるだけだ。また、業務用を意識させる部分としては、telnet接続での設定にも対応している点。telnet接続とスクリプトを使えば、アクセスポイントの設定を定期的に変更したり、通信状態のログを収集できたりするなど、管理者に役立つ機能を備えている。広いオフィスや複雑な形状で複数のアクセスポイントが必要ならGW-AP54AGは断然有利な製品と言えるだろう。

（中西敏夫）

背面にはLANインターフェイス、リセットスイッチ、電源コネクター、2個のアンテナ用コネクターがある。PoEを使えば電源コネクターは不要になる。



無線LANの設定画面。こういった設定に慣れていない人ならウィザードを使って設定すると便利だ。「アドバンスドセットアップ」を使えば、詳細な設定も可能。

PoE対応機器との接続ならイーサネットケーブル1本で通信と給電が可能。付属PoEアダプターを使えばPoE非対応機器との接続でも給電が可能だ。

本体サイズ	221(W)×38.5(H)×136.5(D)ミリ
重量	550g
無線LAN規格	IEEE 802.11a/b/g準拠
LANインターフェイス	100BASE-TX/10BASE-T×1ポート
セキュリティー	WEP(64/128/152ビット)、MACアドレスフィルタリング
認証機能	IEEE 802.1x(EAP-TLS、MD5)

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

HPの2003年冬のフラッグシップモデルは初の無線LAN搭載複合プリンター

HP PSC 2550 Photosmart

11月初旬発売予定

日本ヒューレット・パッカード

価格：オープン価格（オンライン直販価格：52,800円）

インクジェットプリンターとして初めて無線LAN機能を本体に搭載。単体でコピー機、カードリーダーとしても使える。FAXの自動紙送り機能がないので、頻繁にFAXを送るような用途では使いづらいかもしれない。

高機能、高性能で最高峰機種の名に恥じない作り

HP PSC 2550 Photosmartは、プリンター、スキャナー、コピー、FAX、メモリーカードリーダーと計5種類の機能を統合した複合機で、ヒューレット・パッカードが2003年冬の家庭用プリンター商戦に送り込むフラッグシップモデルだ。パソコンとの接続は、USB2.0（最高転送速度は12MbpsのFull Speed対応）での直結のほか10/100BASE-TX対応の有線LAN接続、IEEE 802.11b準拠の無線LAN接続の3つの中から選択可能だ（ドライバーなどのインストール時に選択）。

印刷部はフルカラー対応のサーマルインクジェット方式で最大解像度は4,800×1,200dpi。スキャン部はフラットベッド方式で、RGB各色16bit階調入力（出力はRGB各色8bit）、最大スキャン解像度が1,200×2,400dpi。メモリーカードリーダー部は、コンパクトフラッシュ（Type I/II）、スマートメディアとxDピクチャーカード、SDメモリーカード（miniSD、MMC含む）、メモリースティック（メモリースティックDuo含む）の計4スロット装備。そのほか、パソコンを介さないで、メモリーカードから直接デジカメ画像などを印刷する際に便利な2.5インチカラー液晶ディスプレイを搭載しており、フラッグシップモデルの名に恥じない作りとなっている。

同梱ソフトは、スキャナーやメモリーカードから画像を読み込んで、アルバム管理やカード、チラシの作成ができるHP Photo Imagingと画像アルバム・スライドショー作成ソフトのHP Memories Disc Creator、年賀状印刷ソフトの宛名職人5.2、OCRソフトのIRIS.OCRなど。特にHP Photo Imagingは、直感的な操作でメッセージカードなどが作れるため、主婦や子供といった家庭でのメインユーザーには使い勝手がいいものとして受け入れられるだろう。

本体右上部にコンソールが集中している。2.5インチカラー液晶ディスプレイがあることで、スキャン時にわざわざパソコンでデータを確認する必要がなくなるなどのメリットが生まれている。

USB、無線LAN、有線LAN、どれか1つしか選べない

この製品の最大の特徴は、やはりインクジェットプリンターとして初めて無線LAN機能を本体に装備したことだろう。その無線LAN接続環境の設定では、途中一時的に有線LANケーブルを接続して、また外すという作業があるのだが、それらも含めてウィザードに従って作業を進めていけば迷わず完了できるようになっている（無線LAN以外の接続方式の設定もウィザード形式で簡単にできる）。ただ、気をつけたいのは接続環境設定ソフトのインストールがUSB、LAN、無線LANのうちどれか1つしか選択できない点だ。テストでは、無線LAN接続で設定したあと無線LANを切り、USBで接続してみた。この際インストールCDから設定ソフトのインストール作業が再度行われるのだが、それ以降本機のスキャンボタンを使ったスキャナ機能が使えなくなってしまった。接続を無線LANに戻してもこの現象は回復しなかった。もちろん、本機の設定ソフトをすべてアンインストールした後、再度接続環境に合わせてインストールしなおせば問題なく動くようになるのだが、これらプログラムは合計で400MBを越えることもあってかアンインストール＆再インストールにかかる時間もバカにならない。このあたりは1回のインストールでどの接続もまかなえるような工夫がほしかった。

ただし、本機の最大の魅力は多くの機能を集約することで、小規模オフィスや家庭などで重複しがちな周辺機器を1つにまとめられることにある。特に、無線LANが使えることで配線やレイアウトの問題からも解放されるので、省スペース化効果も期待できる。これらのメリットを考えれば、インストール時のデメリットはさほど大きいものではないかもしれない。　（井上繁樹）

ユーティリティーには同梱ソフトの機能をボタン一押しで呼び出せるランチャーが付いている。使用頻度の高い機能が並び、使い勝手がよかった。

HP Photo Imaging。画像のアルバム管理を中心に、スキャン、デジカメ画像読み込み、印刷、カード＆チラシ作成機能などが統合されている。

OS	ウィンドウズ98/2000/XP（要IE5.01以降）
サイズ	466（W）×213（H）×373（D）ミリ
最大用紙サイズ	A4
印字速度	モノクロ21枚/分、カラー15枚分
インタフェース	USB2.0（最大12Mbps）、IEEE 802.11b ワイヤレスLAN、100Base-TX/10Base-T LAN

©1994-2007 Impress R&D

CSVファイルで差し込みメールを簡単に送信

マーケティングに不可欠の同報メール配信ソフト

ビジネスでは、ダイレクトメールやニュースリリース、案内状、メールマガジンなど、同一文面のメールを複数のユーザーに配信したい場面が多い。そんなときに便利なのが同報メール配信ソフトだ。これを使うと、CSV形式ファイルやタブ区切りテキストなどからメールアドレスをインポートして配信できるだけでなく、個々のメールにユーザーの氏名や顧客番号など固有の情報を埋め込む「差し込みメール送信」が可能となる。今回は同報メール配信ソフトの仕組みや機能について見ていこう。（大澤文孝）

Bccヘッダーによるメール送信と同報メール配信ソフトとの違い

メールを同報送信する場合、まず考えられるのが、アウトルックエクスプレスなどの汎用メールソフトを用い、Bccヘッダーを使って送信する方法だ。Bccヘッダーを使ってメールを送信するときは、メールソフトの「Bcc」欄にメールアドレスを複数指定しても、自分のパソコンから実際に送信するメールは1通だけでいい。なぜなら利用するSMTPサーバーがBccヘッダーを見て、自動的に複製してくれるからだ。

しかし反面、Bccヘッダーを使うと、同一文面のメールを送信することしかできない。そしてさらには受信者に対して、いかにも同報メールで送信しているという印象を与えがちだ。なぜなら、宛て先となるToヘッダーが存在しない（または送信者のメールアドレスなどが設定される）ため、メールを受け取ったユーザーは、誰宛てに送られたメールなのかが明白ではないからだ。

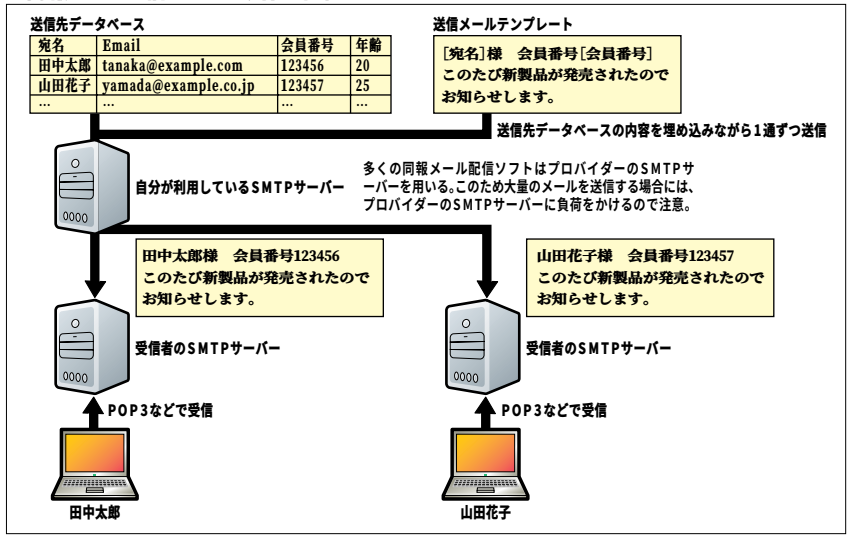
またBccヘッダーに指定できる受信者数は、利用するメールソフトやプロバイダーによって制限される。環境にもよるが、一般にBccヘッダーを使って送信できる限度は、数十人規模だ。それを超える場合には、何度かに分けて送信するか、同報メール配信ソフトを使うしかない。

同報メール配信ソフトは、Bccヘッダーを使わずにToヘッダーを使って、1通ずつ相手先に届ける。このため、送信数の制限はない。

とはいえ、Toヘッダーを使って1通ずつ送信することから、受信者数が増えると送信に時間がかかるという点に注意したい。高速な回線を使えば、送信にかかる時間を短縮できるものの、プロバイダー側のSMTPサーバーの処理能力の関係もあり、専用に構成されたSMTPサーバーでないかぎり、1時間あたり数千通が限界だ。

ちなみに同報メール配信ソフトには、一定の日時になったらメールの送信を開始するタイマー設定機能を持つものもある。この機能を使えば、新製品発表のタイミングに合わせてメールを送信する、日時限定のタイムセールの広告メールを送信することも容易だ。

■同報メール配信ソフトの動作の仕組み



同報メール配信ソフトの要となるデータベース機能

同報メール配信ソフトの最大の特徴は、送信するメールの内容を、受信者ごとにカスタマイズできるという点だ。

同報メール配信ソフトでは、送信先のメールアドレスだけでなく、氏名、会員番号、年齢、性別など、さまざまな個人情報をデータベースとして管理できる。そしてメールの送信時に、個人情報を埋め込めるようになっている。

個人情報データベースは、新規に作成するだけでなく、ほとんどの同報メール配信ソフトがCSVファイルからのインポートに対応している。このため、既存の顧客情報をそのまま流用できる。また、同報メール配信ソフトによっては、ExcelワークシートやAccessのデータベースをそのまま利用できるものもある。

差し込みメール送信を実現するテンプレート機能

個人情報をメールのどこに埋め込むのかを指定するのが送信メールのテンプレートだ。

個人情報を埋め込むためのテンプレートの書式は同報メール配信ソフトによって異なり、たとえば「[項目名]」などの特殊な文字で指定する。仮にメールの本文中に「[宛名]様　会員番号：[会員番号]」などと書いておくと、メールの送信時に、個人情報の「宛名欄」と「会員番号欄」の値が埋め込まれ、「田中太郎様　会員番号：

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

123456」「山田花子様　会員番号：123457」といったように、個人情報を埋め込んだメールを送信できる。

さらには個人情報の条件によって、文面を変更できるものもある。この機能を使うと、たとえば個人情報の「利用回数」の欄が3回未満の場合には「弊社のサービスをご利用いただきありがとうございます」とし、3回以上の場合には「いつも弊社のサービスをご利用いただきありがとうございます」のように「いつも」を付加するなど、細かな配慮がされた文面の設定も可能だ。

また、携帯電話用のテンプレートを別に用意しておき、メールアドレスが「xxx@docomo.ne.jp」や「xxx@ezweb.ne.jp」などのように携帯電話のドメインであったときには、携帯電話用のテンプレートを使って送信するというように切り替えられるものもある。

ほかにも、読み込んだ個人情報を送信条件として設定できるものもあり、アンケートのデータベースから抽出してメールを送信する場合、「20代の女性のみに送付」といった条件も付けられる。

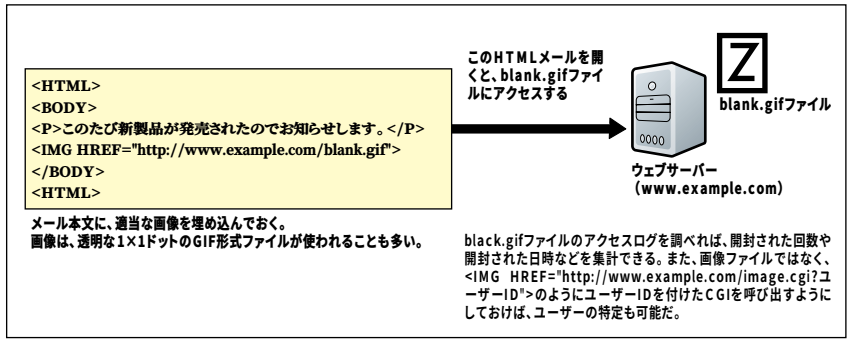
データベースを最新状態に保つ工夫

同報メール配信ソフトを使う場合、もっとも重要なのは、送信先を決めるデータベースを最新の情報に保つという点だ。

大量に送信するとなれば、メールアドレスが異なるなどの理由からエラーメールとなって戻ってくる確率が高くなる。また、「もうそのような広告メールを受け取りたくないから拒否したい」という申し出も受け付けなければならないだろう。拒否したいというユーザーの申し出を無視して送信し続けるのは悪印象を与えることになるので、送信先リストから早期に除去するべきだ。

送信先アドレスの訂正や除去は基本的には手作業となる。しかし同報メール配信ソフトによっては、エラーメールが戻ってきたときに、次回の送信先から除外するという機能が付いているので、いくらか手間を軽減できる。

■HTMLメールを利用した開封チェックの仕組み



マーケティング目的に役立つ開封確認機能

同報メールをマーケティング目的で使う場合には、どの程度のユーザーがメールを開封したかを知りたいだろう。

開封したかどうかを知るには、アウトルックエクスプレスなどのメールソフトが対応する「開封通知機能」を使うのもいい。開封通知機能とは、RFC 2298で定義された Disposition-Notification-Toヘッダーを用いて、受信者が開いたとき、その通知をメールで返す仕組みだ。

しかし、開封通知機能はプライバシー保護の点で嫌われる傾向にある。このため、ほとんどのメールソフトは自動的に開封通知を出さず、通知を出していいかをユーザーに尋ね、よいと答えたときだけ通知するという動作になっている。開封通知機能は完全なものではないし、メールソフトによってはいちいちメッセージが表示されるため、ユーザーに対して悪印象を与える可能性がある。親しい間柄ならともかく、営利目的の場合には適するものとはいえない。

そこで代わりとなるのが、HTMLメールとウェブサーバーを組み合わせた開封チェックの仕組みだ。HTMLメールにはウェブサーバー上の画像などをリンクとして埋め込めるので、同報メールに、自社が管理するウェブサーバー上の適当な画像を埋め込んで送信する。そうすると、ユーザーがそのHTMLメールを開いたときにウェブサーバー上の画像に対してアクセスが発生する。ウェブサーバーのアクセスログを見れば、どれだけのユーザーがメールを見たのかがわかるというわけだ。

とはいえ、そもそもHTMLメールはあまり歓迎されるものではなく、やりすぎるとプライバシーの侵害にもなり、悪い印象を与えかねないので多用は禁物だ。

同報メール配信ソフトはルールを守って注意して扱う

同報メール配信ソフトの利用にあたって注意しなければならないことがある。それはSMTPサーバーへの負荷だ。

同報メール配信ソフトは、1通1通メールを送信するため、利用しているプロバイダーのSMTPサーバーに大きな負荷をかける。多くの同報メール配信ソフトは、メールの送信間隔を指定できるので、負荷がかからない常識的な範囲で利用したい。またプロバイダーによっては、過多なメールの送信を避けるため、一定時間内に多数のメールを送信すると、それ以上受け付けない仕組みを備えていることもある。このような構成の場合、多数のメールを一気に送信するとエラーとなり、正しく送信できない。

また同報メール配信ソフトでの送信に限らないことだが、営利目的のメールを送る場合には、SPAMとならないような配慮が必要だ。ビジネス慣習上の適度なルールを守り、あらかじめ許可をとってあるユーザーにしか送信しないとか、顧客全員に無条件に送信する場合には、最低限、次回以降の配信を止めるための選択肢をユーザーに与えるとかの仕組みを設けるべきだろう。

©1994-2007 Impress R&D

メールマジック プロフェッショナル for Windows

インフィニシス URL http://www.infinisys.co.jp/product/mail_magic_pro/

価格：7,300円（パッケージ販売）／
5,800円（ダウンロード販売）

メールマジックプロフェッショナルは、ユーザーインターフェイスがよく、使いやすい同報メール配信ソフトだ。

アドレス帳となるデータベースのインポートは、CSV形式およびタブ区切りのファイルに対応。アドレス帳をクリックするだけで送信するか否かを決められるほか、ヘッダーをクリックすると並べ替えることもできて操作性がいい。また送信済みのユーザーには［済］のマークが付くため、途中で送信を中止して再開したとき、再び同じユーザーに送信してしまうという事故も防げる。

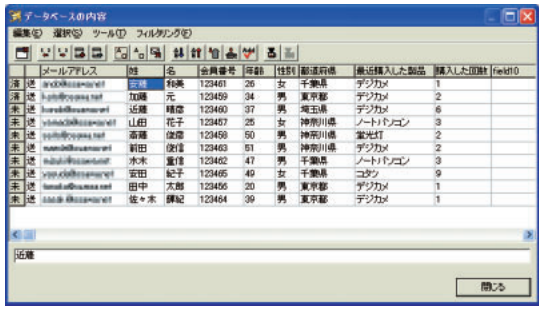
送信できるメールは、テキストメールとHTMLメールの2種類。テキストメールの場合には、メールのテンプレートをテキストとして記述し、個人情報を埋め込みたい場所に「[[項目名]]」という書式で入力する。この書式は、ボタンを使うと簡単に挿入できるため、手作業で記述する必要はない。

HTMLメールの場合には、ウイザード形式で作成することになる。本製品にはいくつかのHTMLテンプレートが付属しており、利用する画像を選択したり、埋め込むテキストを設定したりするだけでいい。反面、ウイザード以外で、HTMLメールを直接記述することはできない。カスタマイズしたHTMLメールを送信するためには、HTMLテンプレートをHTMLエディターなどを使って事前に編集して作成する。

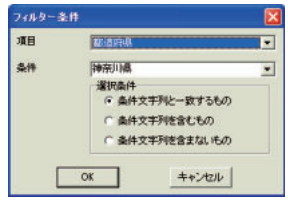
送信前のプレビュー画面では、本文だけでなく、全ヘッダーが表示される。差出人やメールサーバーの環境設定などにミスがないかを調べられるのはありがたい。

全体的な機能を見ると、同報メール配信ソフトに必要な機能は一通り揃っているものの、複雑な条件による文面の変更や任意のヘッダー送信には対応しないので、開封通知を受けたいとか、送信者のアドレスとエラーメールを受け取るアドレスを別にしたいといったことはできない。

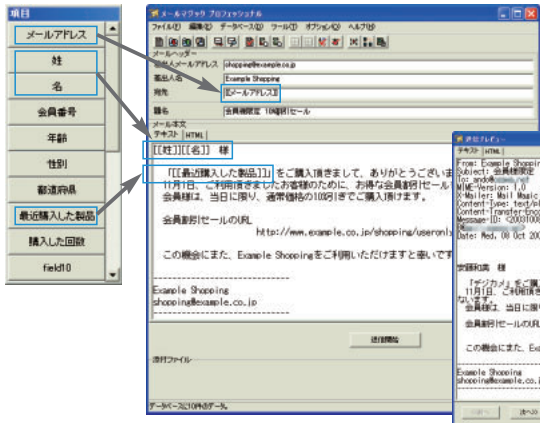
しかしそれが操作を簡単にしている。複雑な操作がなく、誰でも簡単に扱えるので、同報メールの送信業務に携わる者がパソコンにあまり詳しくない場合には、適切なソフトだといえるだろう。



インポートしたデータは表形式で表示され、マウスでクリックすることで、その人に送信するのかしないのかを切り替えられる。送信済みの場合には［済］、未送信の場合には［未］と表示されたり、ヘッダー部分をクリックすると並べ替えられたりするなど、細かい操作の配慮もなされている。

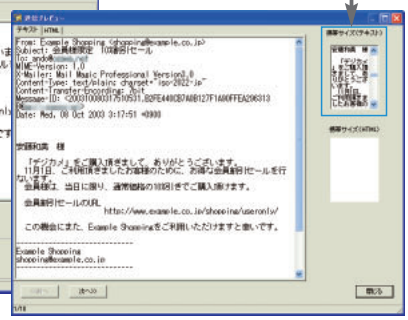


条件によるフィルタリングも可能。［項目］を選択すると現在のデータで使われている値が［条件］欄に一覧表示されるので、条件となる値を入力する必要はなく、表示された中から選ぶだけでいいのは便利。

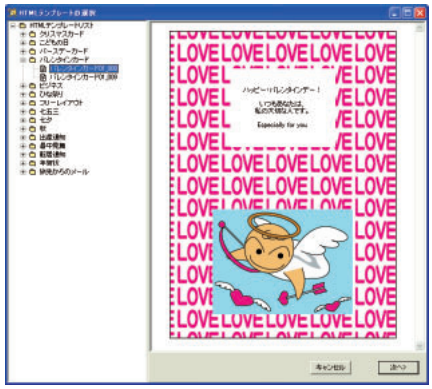


テンプレートでは、「[[項目名]]」という書式を使って、個人情報を埋め込む場所を決める。この書式は、ポップアップウインドウ（左画面）で該当ボタンを押すと簡単に挿入できる。

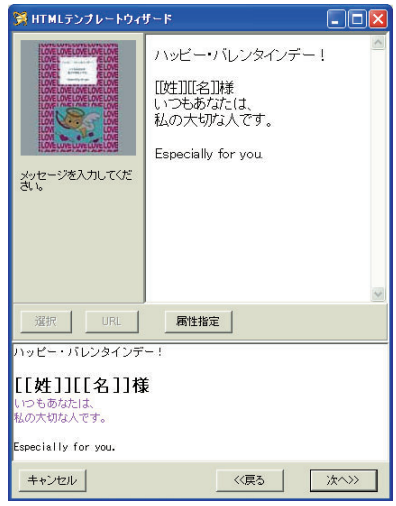
携帯電話向けプレビュー



プレビュー画面では、送信されるヘッダー情報も確認できる。また右上には横幅を縮めた携帯電話向けのプレビュー画面も用意されている。



HTMLメールは付属のテンプレートを使ったウイザード形式で作成する。挿入される画像とテキスト、フォントの大きさや色などは変更できるが、ウイザード完了後のHTMLメールをこのソフトで編集することはできない。カスタマイズしたいときには、HTMLテンプレートをHTMLエディターなどで作成する必要がある。



HTMLメールにももちろん項目の値を挿入できる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

adToOne3

ザイソフト　URL http://www.zaisoft.com/jp/adtoone/

価格：9,800円（シェアウェア）

adToOne3は、高度なカスタマイズ機能を持つ同報メール配信ソフトだ。adToOne3では、送信する際のすべてのヘッダーをカスタマイズできる。またメールだけでなく、FAXモデムを使ったFAX送信にも対応する。

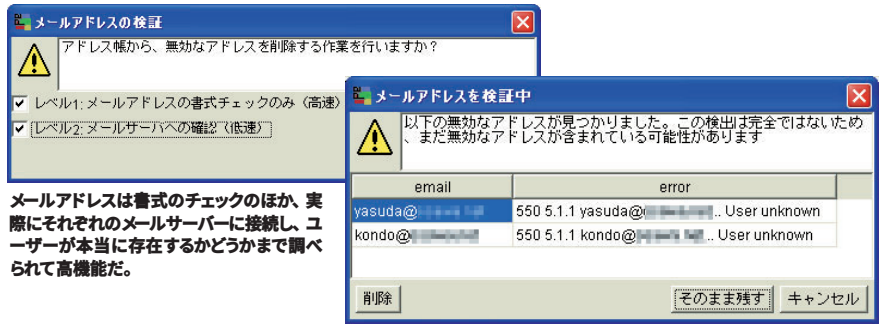
adToOne3の大きな特徴は、「条件置換ウインドウ」にある。条件置換ウインドウでは、アドレス帳のどの項目がどのような値であったとき、どのような動作をさせるのかをきめ細かく設定できる。adToOne3では、「プレーンテキスト（通常メール）」「HTMLメール」「携帯メール」の3種類のテンプレートを備え、その切り替えも条件置換ウインドウで行う。たとえば、「メールアドレスにdocomo.ne.jpが含まれていたならば携帯メールを使う」といった具合に条件を指定してテンプレートを切り替える。慣れるまでは難しいが、柔軟性は高い。

またメールのテンプレートに「[[@置換名]]」という書式を入れておくと、条件置換ウインドウで指定した条件に従って文面を変更することも可能だ。たとえば購入回数が一定以上のときには、「いつもありがとうございます」というメッセージを入れるといったこともできる。

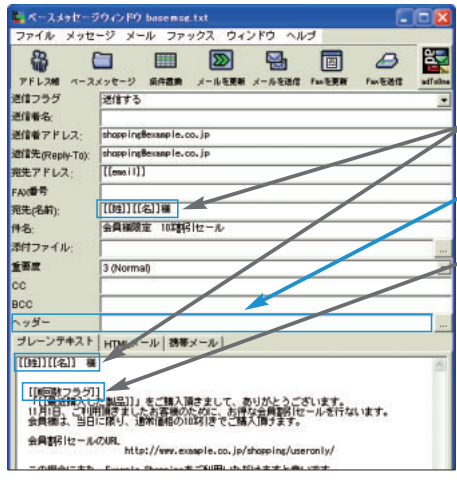
また開発元のザイソフトでは、adToOne3に付随したさまざまなサービスを提供している。そのうちの1つがユーザーに無料で提供しているreportUserClickedサービスだ。

reportUserClickedサービスは、ザイソフトのサーバーにユーザーごとに固有のURLを割り当てるもので、どのユーザーがいつメールを開封したかがわかるほか、退会へのリンクをクリックしたときには、adToOne3側で送信先リストから自動で除去する機能も実現できる。reportUserClickedサービスを使えば、広告の効果の集計や退会処理の自動化が簡略化されるのは間違いない。

adToOne3は高機能な反面、少し複雑な設定を要求されるので、手軽に使えるとはいえない。「本格的にマーケティングデータを収集したい」という目的に適するものの、同報メールを送るだけが目的で、その後の反応や集計までを目的としていないなら、高機能すぎるがゆえに扱いにくい部分があるかもしれない。



メールアドレスは書式のチェックのほか、実際にそれぞれのメールサーバーに接続し、ユーザーが本当に存在するかどうかまで調べられて高機能だ。

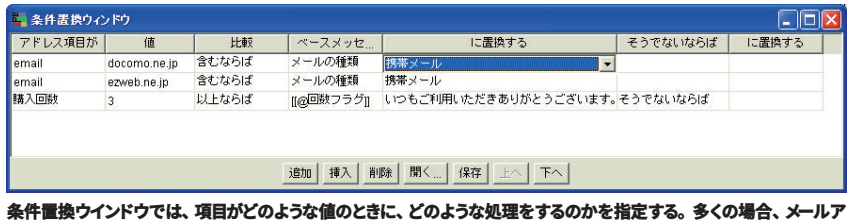


メールのテンプレートは、[プレーンテキスト] [HTMLメール] [携帯メール]の3種類を登録できる。どれが使われるのかは自動判定ではなく、条件置換ウインドウで指定する。

【A】「[[項目名]]」の書式を使うと、アドレス帳データベース内の項目を埋め込める。

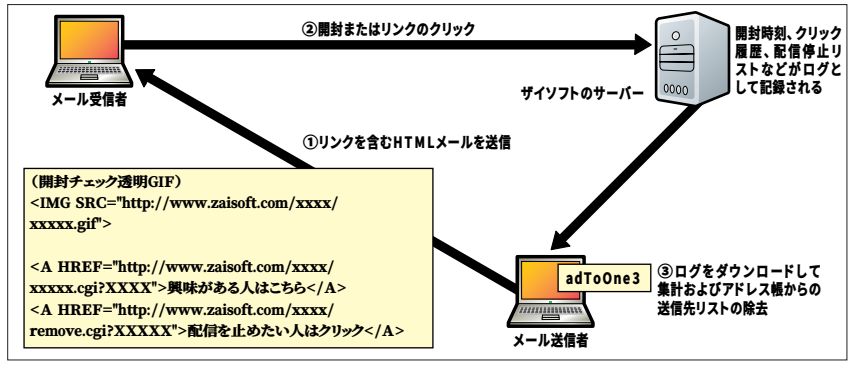
【B】Ccヘッダー、Bccヘッダーのほか、任意のヘッダーを指定できる。

【C】「[[@置換名]]」の書式を使うと、条件置換ウインドウで指定した置換文字列が挿入される。



条件置換ウインドウでは、項目がどのような値のときに、どのような処理をするのかを指定する。多くの場合、メールアドレスによって「プレーンテキスト」「携帯メール」のどちらを使うのか仕分ける条件を追加することになるだろう。それ以外にも、画面のように購入回数などの項目に応じて埋め込むメッセージを変更するといった処理も可能だ。

■reportUserClickedサービスの仕組み



©1994-2007 Impress R&D

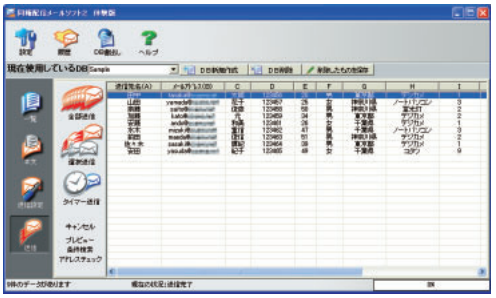
同報配信メールソフト2
デネット　URL http://www.de-net.com/pc/

価格：19,800円

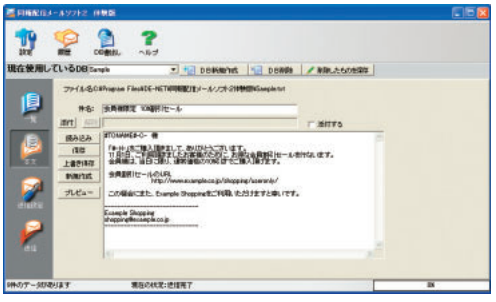
事前に設定することなく簡単に同報メールを送信したい場合に適するのが同報配信メールソフト2だ。見栄えのいいユーザーインターフェイスで、インポートしたアドレス帳のうち、送信したいものをマウスで選択するだけで同報送信ができる。

同報メールに埋め込む値は、テンプレートに「#--項目名--」と記入することによって行う。挿入のためのボタンやメニューはないので、手作業で記入することになる。項目名は、インポートした列順に「A」「B」のように少しわかりにくい命名だが、Excelに慣れた人には馴染み深いだろう。

最大の特徴は、POP3を使ったエラーメールの受信に対応している点だ。この機能を使うとエラーメールを受信して実際に届かなかった宛て先の一覧を作成でき、そのままアドレス帳に反映させられる。エラーメールのアドレス除去の自動化が可能だ。



アドレス帳は、CSV、タブ区切り、スペース区切りのファイルからインポートできる。アドレス帳でマウスをクリックしてチェックしたユーザーだけにメールを送信でき、条件検索による選択も可能だ。



本文に「#--項目名--」を記述すると項目を埋め込める。項目が名前ではなく、「A」「B」「C」……のように命名されているのは、少しわかりにくいかもしれない。

携帯電話用のテンプレートはないが、携帯電話画面に似たプレビューはできる。ただしプレビューは登録されたアドレス帳の先頭1件分に限られる。

BitMailPPO
ニュースビット　URL http://www.newsbit.co.jp/software/bmp/

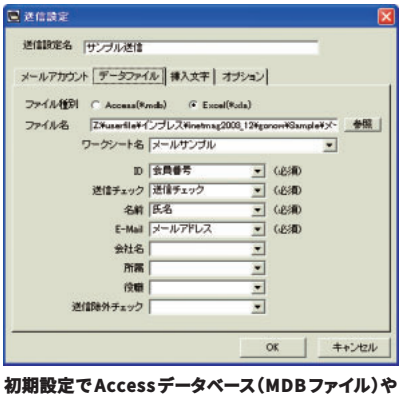
価格：21,000円（CD-ROM販売）／18,900円（ダウンロード販売）

BitMailPROは、AccessのMDBファイルやExcelのXLSファイルをそのまま利用できる同報メール配信ソフトだ。インポートではなく直接の読み書きなので、元のファイルを編集すればBitMailPROにも反映される。このためデータベースの顧客情報とリアルタイムに連携した同報メールを送信できる。

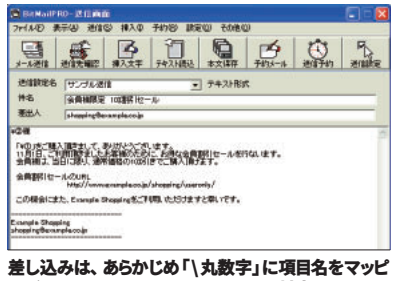
利用できるMDBファイルやXLSファイルには、「ID」「送信チェック」「名前」「Email」の4つの列さえあればよく、それ以外の項目の構成は自由だ。

同社では、エラーメールを受信して送信先リストから排除する「BitSearch」、定型フォーマットで送信されたメールを受信してデータベース化する「BitplusPRO」も販売している。たとえばBitplusPROを使うと、ユーザーから定型の製品注文メールを受信して、それを自動でデータベース化できる。

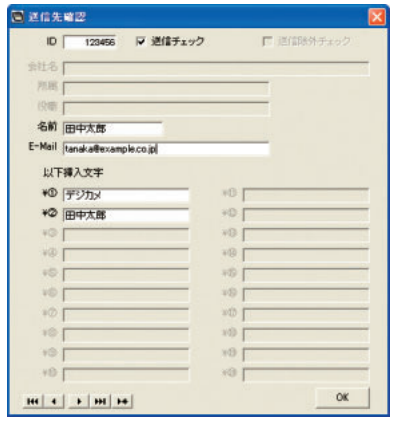
若干のシステム開発が必要となるものの、BitMailPRO、BitSearch、BitplusPROを組み合わせれば、メール処理のほとんどを自動化できる。



初期設定でAccessデータベース（MDBファイル）やExcelファイル（XLSファイル）とのマッピングをする。インポートではなくマッピングなので、データはリアルタイムに反映される。「ID」とは各ユーザーに固有の唯一無二の番号のこと。また「送信チェック」とはチェックボックス欄（Yes/No型）で、送信の有無を決めるための列だ。



差し込みは、あらかじめ「\丸数字」に項目名をマッピングして埋め込む。HTMLメールにも対応している。



編集機能は、表形式にはならず、1項目ずつしか設定できない。送信するか否かの設定も上にある「送信チェック」で行うので、編集の操作性は悪い。このため、編集はAccessやExcelを使ったほうがいいだろう。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

MMアシスト

アイリンク　URL http://www.mm-assist.com/pro/

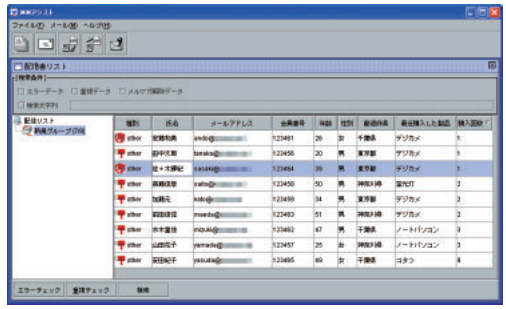
価格：15,000円（ダウンロード販売）

単純な操作で大量のメールを送信できる同報メール配信ソフト。CSV形式のファイルを読み込み、アドレス帳を階層ごとにグループ化して管理できる。グループ化したユーザー全体を送信の対象／非対象に一括設定できるほか、グループ内の個々のユーザーの送信／非送信の設定もできる。

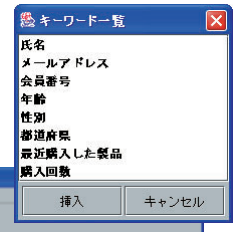
同報メール機能は単純なもので、アドレス帳に含まれている項目を「<項目名>」という書式で挿入する。

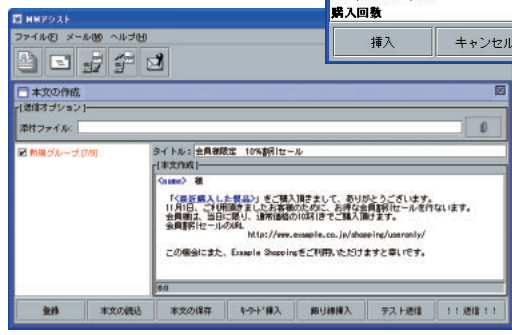
単機能のためメールの送信速度は高速だが、細かい部分の配慮が少ない気がする。たとえばメールの送信先の名前には、「氏名」の後ろに「様」が自動的に付くのだが、これを無効にして「御中」などに変更することはできない。また、プレビュー機能がなく、送信テストは自分宛てでするしか方法がないのも気になる点だ。

大量のメールを手軽に送信するには便利だが、高機能ではないので、マーケティング目的よりメールマガジンなどの配信に適するだろう。



アドレス帳データベースは、CSV形式のファイルからインポートできる。氏名とメールアドレスは必須。氏名やメールアドレス以外にも任意の項目を追加できる。ただし、CSV形式のファイルを読み込む前にMMアシスト上で列を追加しておき、その列名と同じ名前がCSV形式ファイルの1列目に存在しないと正しく読み込まれず、わかりにくい。





メールはテキストにのみ対応。「<項目名>」で項目を挿入できる。テスト送信では送信元として設定したアドレスにテストメールが送信される。このとき、「<氏名>」「<メールアドレス>」以外の項目は埋め込まれないので完全なテストとはならない。ぜひともプレビュー機能が欲しいところだ。

■同報メール配信ソフト機能比較

	メールマジックプロフェッショナル for Windows	adToOne3	同報配信メールソフト2	BitMailPRO	MMアシスト
インポート可能な形式	CSV、タブ区切り	CSV、タブ区切り、ODBCデータベース	CSV、タブ区切り、スペース区切り	CSV、Excel、Access	CSV
エクスポート可能な形式	CSV、タブ区切り	読み込んだのと同じ形式	CSV、タブ区切り、スペース区切り	×	CSV
項目による送付条件指定	項目値の合致によるフィルタリング	項目値の合致、以下、以上などの組み合わせによる条件	項目値の合致によるフィルタリング	×	項目値の合致によるフィルタリング
重複アドレス除去	○	○	○	×	○
携帯電話向けテンプレート切り替え	×	○（条件指定）	×	×	×
日本語以外の言語	英語（us-ascii）	英語（ISO-8859-1）	×	×	×
設定できるヘッダー	差出人	任意のヘッダー	差出人、返信メール受信アドレス、エラーメール受信アドレス	差出人	差出人
HTMLメール	ウイザードによる作成のみ	○	×	○	×
添付ファイル	○	○	○	×	○
ISO-2022-JPに準拠しない文字の変換	手動	×	×	×	×
POP3によるエラーメールや拒否メールの受信	×	×（CGIを利用）	○	×	×
POP Before SMTP	○	○	○	○	○
SMTP Auth（認証）	×	○	○	○	○
SMTPサーバーを使わない直接配信	×	○	×	×	×
日時指定予約送信	○	○	○	○	×
送信プレビュー	全メール。ヘッダーも可能	全メール	先頭1メールのみ	全メール	×（送信テストのみ）

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.